

大阪府立大学第20回留学生日本語弁論大会報告書

URL

<http://hdl.handle.net/10466/00016570>

大阪府立大学

第 20 回留学生日本語弁論大会

報告書

平成 25 年 11 月 2 日(土)
大阪府立大学 学術交流会館



大阪府立大学留学生後援会

目 次

第 20 回留学生日本語弁論大会報告書に寄せて	1
第 20 回留学生日本語弁論大会実施要領	2
出場者および入賞結果一覧	3
弁論要旨	
金賞「博士課程行き電車」 ボンドク・アレキサンドラ・アイオナ	4
銀賞「美しく咲く」 王 娜娜	5
銅賞「自転車に乗って『プッパー』」 羅 卿化	7
奨励賞「日本の人々から学ぶ日本の歴史 ～ 挨拶と道德観 ～」 呉 映玫	8
奨励賞「勇気を出す」 王 彦博	10
奨励賞「私なりに」 周 茜茜	11
奨励賞「ありがとう、アイドル先生」 趙 亜方	12
奨励賞「打刃物製作所の見学について」 樊 士進	14
奨励賞「これまでとこれから」 ボフォ・セリア	16
奨励賞「私の日本留学生活 ～自分の体験から考えたこと～」 喻 潔	17
第 20 回留学生日本語弁論大会寄附者名簿	20

大阪府立大学

第 20 回留学生日本語弁論大会

報告書に寄せて

第 20 回留学生弁論大会は、白鷺祭の一環として 11 月 2 日に開催され、4 カ国 10 名がスピーチを行いました。今回の大会での発表レベルは非常に高く、回を重ねるごとに留学生の持つ日本語能力、すなわち論旨を立てて、人にわかりやすく話す能力が向上してきていると感じます。これは留学生のみならず日本人の学生にも言えることですが、初年次ゼミや専門ゼミなどでいろんな人とコミュニケーションを行うとともに、多様な学生や教員にわかりやすく説明するという訓練を積み重ねていることの成果だと思います。

今年の金賞は、ルーマニアから獣医学専攻に入学されたボンドク・アイオナさんの「博士課程行き電車」という発表でした。このなかで最も印象に残ったのは、「日本では、新幹線、ラピート、急行、区間急行、各駅停車とたくさんの電車にりましたが、ルーマニアには遅い電車と、とても遅い電車の 2 種類しかありません」というフレーズです。日本の技術をほめてもらっている反面、そんなに急いでどこ行くの、という言葉の思い出し印象に残りました。銀賞の王さん、銅賞の羅さんをはじめとする参加者の発表についても、論旨を明確にしてわかりやすく話すとともに、落とすところは落とすというメリハリのある発表であり、それぞれ印象の深いものでした。全員の発表内容を報告書内にまとめておりますので、ぜひご一読ください。

本大会はロータリークラブ、国際ソロプチミスト堺、堺市、KoKoC ならびに現役・OB の先生方等のご支援で実現しています。厚く御礼申し上げます。大会の企画と司会を務めた国際交流サークルオリオンおよび大阪府立大学留学生総会、審査員をお引き受けいただいた堺北ロータリークラブ会長城岡陽志氏、国際ソロプチミスト堺会長杉本育代氏、堺市国際課長小谷行彦氏、本学 21 世紀科学研究機構山東功教授に深く感謝いたします。また、発表者の友人、指導教員あるいはご支援いただいております多くの方々に対して、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

大阪府立大学留学生後援会
会 長 杉 村 延 広

大阪府立大学 第20回留学生日本語弁論大会 実施要領

1. 目的 大阪府立大学の大学祭（白鷺祭）イベントの一環として位置づけ、留学生の日本語学習を奨励するとともに、広く留学生と日本人相互の国際理解と交流を深める。
2. 日時 平成25年11月2日（土）
14：00～16：00 弁論大会
16：00～17：00 交流会
3. 場所 大阪府立大学 C1棟 学術交流会館多目的ホールおよびサロン
（堺市中区学園町1-1）
4. 概要
 - (1) テーマ 「日本人との交流経験」
 - (2) 弁論者 4カ国10名の留学生
 - (3) 弁論時間 各5分
 - (4) 審査員
堺市 国際課長 小谷 行彦
堺北ロータリークラブ 会長 城岡 陽志
国際ソロプチミスト堺 会長 杉本 育代
大阪府立大学21世紀科学研究機構教授 山東 功
大阪府立大学留学生後援会会長 杉村 延広
 - (5) 賞
金 賞（1名） 賞状・副賞
銀 賞（1名） 賞状・副賞
銅 賞（1名） 賞状・副賞
奨励賞（7名） 賞状・副賞
5. 主催 大阪府立大学留学生後援会
共催 大阪府立大学・大阪府立大学留学生総会
後援 堺市・堺市内ロータリークラブ・国際ソロプチミスト堺
協力 国際交流サークルオリオン

出場者および入賞結果一覧

	氏名	弁論タイトル
金賞	ポンドク・アレキサンドラ・アイオナ (生命環境科学研究科 D1 年)	「博士課程行き電車」
銀賞	王 娜娜 (経済学研究科 M1 年)	「美しく咲く」
銅賞	羅 卿化 (地域保健学域 1 年)	「自転車に乗って『プッポー』」
奨励賞	呉 映玟 (人間社会学研究科 M2 年) 王 彦博 (経済学研究科 M1 年) 周 茜茜 (経済学研究科 M1 年) 趙 亜方 (生命環境科学研究科 研究生) 樊 士進 (人間社会学研究科 M1 年) ポフォ・セリア (人間社会学研究科 特別聴講学生) 喻 潔 (人間社会学研究科 特別研究学生)	「日本の人々から学ぶ日本の歴史 ～ 挨拶と道德観 ～ 」 「勇気を出す」 「私なりに」 「ありがとう、アイドル先生」 「打刃物製作所の見学について」 「これまでとこれから」 「私の日本留学生活 ～ 自分の体験から考えたこと ～ 」



金賞 ポンドク・アレキサンドラ・アイオナさん



銀賞 王 娜娜さん



銅賞 羅 卿化さん



審査員と出場者のみなさん

<金賞> 博士課程行き電車



生命環境科学研究科 D1 年
ボンドク・アレキサンドラ・アイオナ（ルーマニア）

皆さん、こんにちは。私の名前はアイオナ・ボンドクです。ルーマニアからきました。ルーマニアは東ヨーロッパにある美しい国です。私は獣医病理学研究室の大学院1年生です。

日本に来てから、ルーマニアにはなかった様々な新しいものに出会い、驚きました。日本には、色々な豆や芋、お酒、そしてたくさんの漫画があります。『進撃の巨人』はおすすめです。そして、新幹線、ラピート、急行、区間急行、各駅停車などのたくさんの種類の電車にも乗りました。私が生まれ育ったルーマニアには、豆と芋は1種類しかなく、電車は遅い電車ととても遅い電車の2種類しかありません。でも、いろいろなお酒はありますけどね。

私は、これから日本人の生活を電車に例えて話そうと思います。電車は私たちの人生とよく似ています。とても効率よく物事をこなす新幹線のような人もいますし、丁度よい急行のような速度で過ごす人もいます。また、各駅停車のように、のんびりとした人もいます。ルーマニアで、私は、自分が速い電車であると思っていました。しかし、日本に来て勉強や実験を始め、周りの学生たちの様子を見て、とても速い新幹線のように感じました。私は実はルーマニアののんびり各駅停車だったのです！日本での研究は専門性が高く、学生たちはとても熱心で優秀です。なぜ皆こんなにすごいんだろうと不思議に思いました。弟子にしてください！私も日本の学生のようになるために努力しようと思いました。しかし、今は各駅停車もそんなに悪くないなあと感じています。新幹線になる前に、色々な駅に止まり、沢山のものを楽しんで、勉強したいと思います。

まずはじめに、日本の燃料に慣れることが大切です。停まる駅は「食べ物ファイト！！駅」です。私は食べ物が大好きなので、全部食べてみました。ラーメン、てんぷら、お寿司、お刺身、そして、生ウニ、納豆まで！その中でひとつ天敵を見つけました。それは、ホタルイカです。蛸はとても美しく、デリケートな印象を受ける名前です。でも、私のお腹に対しては、美しさもデリケートさありませんでした。でも、先生は、私に「ネバーギブアップ」とおっしゃったので、この敵には負けたくありませんでした。何度か戦って

みて、ようやく私とホタルイカは良い友達になることができました。

次の駅は、「趣味を作ろう駅」です。新幹線のような日本人は専門的な知識をたくさん持っていますが、それ以外にも芸術やスポーツなどの趣味をいくつか持っています。仕事も趣味も充実していて、すごい人たちだなあと感じました。私も読書や絵を描くことが好きですが、趣味として熱心に取り組んだわけではありませんでした。日本にきて、陶芸を知り、興味があるので、挑戦してみたいと思います。電車の線路は1本だけではありません。私も同じように、研究も趣味も両立できればいいと思います。

そして、新幹線になるために、一番大切なことは、口だけではなく、効率的に物事をこなすことです。新幹線の音は静かで、走りは安定しています。そして、とても速いです。今の私は、先生にたくさん実験の計画を話しますが、結果はちょっと遅いです。これから、私の口は静かになるかどうかわかりませんが、もっと効率的に実験が進むようにがんばります。

日本には新幹線のような人がたくさんいますが、その人たちは皆、心優しく親切です。お花見やお祭り、カラオケなど日常のささいな出来事の楽しみ方をよく知っています。新幹線のような人たちは、ただ仕事に熱中するだけでなく、各駅停車の心を忘れていません。このような心を失ってはいけないと思います。人生のバランスを上手にとることが大切です。日本にきてから、私はこのようなことを日々学んでいます。沢山の楽しいことがある日本で、色々なことを感じて、過ごすことができ、とても感謝しています。

ご清聴ありがとうございました。

<銀賞> 美しく咲く



経済学研究科 M1 年
王 娜娜 (中国)

皆さん、こんにちは！

日本に来てしばらくした時、私は偶然に出会ったおじいさんからこんな話を聞きました。「俺は中国に何回も行ってきた。兵馬俑も見たし、万里の長城にも登った。でも、俺はも

う行かない。あの国大っ嫌い。」理由を聞かなくても分かります。2010年9月、釣魚島(尖閣諸島)付近での漁船衝突事件で、中日間の緊張感が高まったからです。日本人に質問されたことがあります。「俺、中国に行ったら殴られるかな？」なぜそう心配しているかは分かります。2012年9月、日本が釣魚島(尖閣諸島)を国有化すると表明してから、中国で起きた大規模な反日デモが一部暴徒化したからです。

中国の家族や友達と電話する度に「大丈夫？」と聞かれます。「相変わらず安全だよ。」と皆に言っていますが、「もう外でぶらぶらするのをやめな。」と注意されたことがあります。中国と日本は隣人同士として何千年も付き合ってきましたが、いつの間にかその間に負の循環が始まりました。中国人は日本人の過去を責めて、日本人はそれに反発してさらに恨まれます。しかしすべての人がこの循環に陥っているわけではありません。

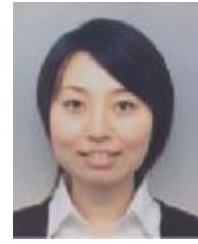
3年前、私は交換留学生として三重県伊勢市に来ました。青く澄んだ大空の下に、緑が目の前に広がっていました。新鮮な空気を胸いっぱい吸い込んだ私は、この透明な世界に一目ぼれをしました。この3年間、私はたくさんの日本人に親切にしてもらって支えてもらいました。もちろん、どこにも悪い人がいます。しかし、私が見た日本人は、平和を大切に、様々なボランティア活動を行ってきました。私が見た日本人は、自然災害で人生をめちゃくちゃにされたとしても、一生懸命頑張ってきました。私が見た日本人は、心を込めたおもてなしで世界からやってきた客を迎えてきました。

「あんたは、もう親日家になったね。」とよく友達に言われます。確かに、以前の私は日本について、あまり知らなくて好感も持っていませんでした。しかし、ここで生活してある程度日本を知った私は、この国のことが好きになりました。とはいっても、私は「親日家」という表現が好きではありません。この言葉に「日本だから」という前提が入っているのでは、となんとなく思っているからです。地球という故郷を共にした私たちは、一国の国民というより、まずは世界の住民であるということに大事にすべきではありませんか。それから、この人はこうだと思いつくのではなく、相手を知ったうえで共に歩いていくべきではありませんか。

今の中国では、「知日」という雑誌が大人気です。日本を知るという意味で、若者向けにありのままの日本を紹介しているそうです。私の周りには中国に興味のある日本人も多くいます。日本を知りたい中国人も、中国に関心を持つ日本人も多くいれば、中国と日本の将来に光が見えます。

中国と日本の友情の花が美しく咲きますように努力しましょう。
ご清聴ありがとうございました。

<銅賞> 自転車に乗って「プッパー」



地域保健学域 1年
ナキョンファ (韓国)

アンニョンハセヨ！羽曳野キャンパス看護学類の韓国人留学生、ナキョンファです。このチマ・チョゴリは如何ですか。

では、韓国人留学生を代表して「韓国留学生が日本でもっとも聞かれる質問」を発表します。3位から発表しますと、「日本のキムチと韓国のキムチどっちが美味しい？」両方美味しいです。ちなみに、堺のくるみ餅も大好きです。第2番目は、「なぜ日本に来ましたか？もしかして、日本人の彼氏？」想像に任せます。第1番目は「韓国人男性はほんとうに優しい？」私の答えは、「皆様、韓国ドラマの見過ぎではないでしょうか」です。もちろん、優しい人も優しくない人もいます。

皆様に、私の大阪ホームステイ経験から、日本人男性の優しさについて話します。私は日本に来るまで受験勉強しか知らなくて、来たばかりの時は色んなことに苦労しました。いつも「大丈夫です！」と笑顔でごまかしました。自転車に乗れない私はすぐ行ける場所もなく、テレビもない部屋に戻るとぼろりと涙が出てしまいました。こんな私に日本人の友達が気づいてくれて、「うちに行こうや！」と自分の家でのホームステイを提案してくれました。私と、関西弁だけを話せる家族との共同生活が始まりました。

友達の表現をかりると「運命のいたずら」が始まった日になったようです。私は手がすべってお皿を割り、「トイレを掃除します。」と言って、トイレの蛇口をとってしまうなど迷惑ばかりかけていました。この私に友達の家族はいつも親切でした。その中で一番親切だったのは、友達のお父さんです。漢字のわからない私に天声人語をほとんど毎日読んで下さったり、おいしいキムチを探すために何軒もの店を回ったりしてくれました。

自転車に乗れない私を見かねて、友達のお父さんは私を公園に誘い、自転車の乗り方を教えてくれました。しかし、どんくさい私はなかなか乗り方を習得する事ができませんでした。友達のお父さんは最後の手段でその公園の坂道に連れて行って下さいました。「後ろをちゃんとつかんだら。大丈夫やで〜。」と話して下さいましたので、私はお父さんを信

じて自転車に乗る事にしました。静かで平和だった公園は3秒後、「キヤーーーー」私の悲鳴がなり響く場所になってしまいました。お父さんは後ろで手を振っていました。けれども、いつの間にか私の自転車は前に進んでいました。私はそれから自転車に乗って、あっちこっちに行くようになりました。自転車と共に日本での生活にも慣れていきました。でもある日、友達からメールがきました。「お父さん、手術やねん。」当時の私はあまりにもびっくりして、泣く事しかできませんでした。友達のお父さんは私にとって「優しい男性」の代表です。

韓国は日本に対して「歴史的な痛み」をもっています。けれども、私は日本に来て、人と人の中には言葉も国も超えて伝わる「温かい心」があると感じました。ここでは言い切れないほど多くの日本の方々との出会いがあり、何度も助けてもらいました。支えて下さった方々のおかげで、ここまでくる事が出来たと思います。私は迷いすぎて、他の学生よりスタートが遅れましたが、元気はつらつな大阪の娘看護師になりたいと思います。少しでも恩返しができると思います。これからも見守ってください。

ご清聴ありがとうございました。

<奨励賞> 日本の人々から学ぶ日本の歴史
～ 挨拶と道德観 ～



人間社会学研究科 M2 年
オヨンミン
呉 映玟 (韓国)

こんにちは。先ほど紹介していただきましたように、私は韓国からきましたオヨンミンと申します。他の留学生と比べて大阪府立大学での生活が一番長いのではないかと思います。2008年に大阪府立大学に入学し、また2012年に修士課程に入りましたので、今年で6年目になります。私の日本人との交流の殆どは大阪府立大学でのものです。先生方を始め、授業と一緒に受講した学友達、先輩達と後輩達、学校の関係者の皆さんとのふれあいがたくさんありました。ふれあいが多くなるにつれ、日本の歴史や文化、日本人の物の見方などが分かるようになりました。

学校に通いながら気付いたことが二つあります。まず、学生が先生方と挨拶を交わすこ

とに消極的であることです。今、私が住んでいるアパートでは、管理人さんが学校に行く私にいつも「行っていらっしやい。」と声を掛けてくれます。家族でもないのにこの挨拶を聞くと、まるで家族を送り出していただいた気がし、親近感を覚えます。さらに、朝から良い気分を一日をスタートできます。隣近所の方と言い交わす「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」は、一見何でもないように見えるかもしれませんが、互いに安心感や親近感を与える重要な役割を果たしています。私も見習って自ら挨拶の声を掛けるようになりました。

学部の時、私は出来るだけ、一般講義ではなく少人数制のセミナーの授業を取ろうとしました。こぢんまりとした雰囲気の中で先生と学生達があるトピックに関して意見を交換し、一緒に本を読んで発表したりするので私には申し分のない授業の環境だと思ったからです。日本人の学生達と一緒に授業を受けながら感じたのは、控えめな態度を取る学生が多かったことです。私は、どちらかという自分を目立たせようとしたのですが、日本人の学生達は、出来るだけ目立たないようにしていました。そこで私は、控えめな学生達は、挨拶自体を避けているのではなく、むしろ目立つようになるのを避けていたのではないかと思うようになりました。ある現象を見る際に結果としてその現象を見るのではなく、その現象の背景に思いをいたらせる姿勢が大事であることに気付きました。

最後に府大の学生の道徳観について語らせていただきます。私が学部2年生の時の出来事です。ある日、二限目の授業を終え、友達と昼ごはんを食べて次の授業を受けに行きました。授業中、私は、自分の電子辞書がないことに気づきました。買ったばかりの電子辞書でした。自転車を盗まれた経験があった私は、授業に集中することが出来ませんでした。どこで電子辞書を落としたのかと頭をめぐらせました。「もし、誰かが辞書を取って行ったならおしまいだ」「どうしよう」色んな思いをしました。授業が終わるや否や前の教室に走って行きました。教室には誰もいませんでした。中を見渡したとたん、私の目に入ったのは机の上に置きっ放しになっている電子辞書でした。私の心配は、ただの杞憂に過ぎなかったのです。私はとても嬉しい気持ちになりました。私と似た経験をした友達が周りに何人もいます。他人の物に手を出さないという府大の学生達の道徳観にとっても感動しています。同じ府大の学生であることを誇りに思っています。

<奨励賞> 勇気を出す



経済学研究科 M1 年
王 彦博 (中国)

みなさん、こんにちは、私は王彦博と申します。よろしく申し上げます。では始めましょう。

私は日本へ来る前に、日本の生活に早く慣れることができるかどうか、この問題をずっと心配していました。でも今の私はもう心配していません。私は 2012 年に日本に来て、緊張や日本語の発音の不安など、いろいろな原因で、日本人と交流することを恐がっていました。例えば、携帯電話を買って、銀行の通帳を作ること。「こんなこと私には無理だ、全部私の先輩に頼みたい」と思いましたが、その時、先輩から「これは練習のいいチャンスだ。」と言われました。私は先輩の言っていることをよく考えました。もし、そのまま先輩に頼んだら、自分の能力は高くなりません。勇気を出して、自分でそれらを解決しました。

その後、私は生活の中でこのような練習と交流のチャンスを探しました。例えば、授業の時に先生に近い場所に座って先生と交流したり、アルバイト先で日本人の友達とよく交流しました。このようにして、私はだんだん自信を持つことができました。日本語で交流することも大好きです。今の私は、自分の先輩と同じ考えを持っています。自分の後輩に一番言いたい言葉は、「何も心配せず、何も恐れず、自分の勇気を出して、交流していきましょう」です。

ありがとうございました。

<奨励賞> 私なりに



経済学研究科 M1 年
周 茜茜 (中国)

皆さん、こんにちは。私は経営学専攻一年生の周茜茜と申します。今日は皆様の時間をいただき、誠にありがとうございます。今日発表するテーマは「私なりの方法」です。よろしくお願ひします。

みなさんは交流するときに、一番大切なものは何だと思ひますか？話し方でしょうか？それともボディランゲージでしょうか？私は自分なりの方法が一番重要だと思ひます。

まず、私のアルバイト経験を紹介したいと思ひます。日本に来たばかりのとき、あるラーメン屋でアルバイトをしました。初日に、ゆで卵を切っていた店長が、「周さん、できますか。」と聞きました。いきなり聞かれてびっくりしましたが「できます。」と答えました。店長が「じゃ、やってみな。」と言ったので、やってみました。私の慣れていない動きを見てすぐ店長は「危ない。」と言って私を止めました。「できないなら、できないって答えなさい。中国の人はアメリカの人と同じ、自分がなんでもできるって自慢する。」と怒られました。私はその場で何も言えませんでした。寮に帰って泣いてしまいました。店長のことが怖くてアルバイトをやめてしまいました。

しかし、なぜ怒られたのか分かりませんでした。「できる」と言いながらできなかったからでしょうか。あるいは、中国人と日本人の考え方に違いがあるからでしょうか。悩んでも分からなかったので、テレビ電話で両親に相談しました。すると、父が「自分の思っことを正直に相手に伝えればいい。自信を持ちなさい。」とアドバイスをしてくれました。

しばらく経ってから、日本料理店でアルバイトを始めました。店のおかみさんに「お皿を洗うことができますか。」と聞かれたので「できます。」と自信を持って答えました。この時も「洗い方が違うよ。」とまた怒られました。しかし今回、私は言葉を失うことなく、おかみさんにお願ひして洗い方を教えてもらいました。そのとき、おかみさんは優しく教えてくれたので感動しました。そのあとも、いろいろ間違っってしまうと怒られましたが、私はいつもすぐ謝って正しいやり方を教えてもらうように頑張りました。結局、その日本

料理店の仕事は2年も続けることができ、店の人と仲良くなりました。2年間、店の方からいろいろ助けていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、人見知りで人と交流するのが苦手でした。しかし日本で生活してきて、自分なりに進めていくことがとても大事だと気が付きました。さらに勇気を出すことができれば、乗り越えられない困難はありません。人と交流する時も同じだと思います。皆さんはどう思いますか？

世界は広い。これから、人とたくさん出会うと思います。私は心を開いて、日本のみなさんと上手に交流していきたいです。ここに立っている私に、一言声をかけていただきたいと思います。日本の人はみんな優しいです。感謝の気持ちでいっぱいです。

ご清聴ありがとうございました。

<奨励賞> ありがとう、アイドル先生



生命環境科学研究科研究生
趙 亜方 (中国)

「笈川先生、ありがとう。本当にありがとうございます。」

これは今、笈川幸司先生に一番言いたい言葉です。「笈川先生って、誰ですか？」皆さんはきっとそう聞くでしょう？笈川幸司先生は現在、中国の清華大学の日本語教授として、既に中国全土の 500 以上の大学で講演したことがあり、数え切れない学生と教師に日本語の勉強に関する指導をしてきています。つまり、中国の日本語を学ぶ学生にとって、笈川幸司先生は「アイドル先生」と言えるでしょう。

笈川先生と初めて出会ったのは 2011 年の夏休みでした。以前の私は、「日本語で発表するなんて絶対できない」とあきらめていました。当時の私たちの日本人の先生は生真面目な人で、いつも教科書に従って本を読み、厳しい表情で授業をしていました。「退屈だなあ！」と、私たちは毎回毎回文句を言いながら、いやいや授業に出ていました。日本人との交流に面白さが見つけられなくなりました。そのため、既に大学二年生でしたが、私は会話が全くできず、挨拶くらいの内容しか話せませんでした。このままでいったら絶対だ

めだ。自分の将来の行方を考え、焦り始めていた私は「自分を変えよう」と決心しました。そして、私は筈川幸司先生の日本語特訓クラスに参加することに決めたのです。

初日、先生を見て大いに驚きました。パワーがみなぎっていて、中国語もぺらぺらしゃべっていました。「さすがアイドル先生だ！」と、私はすぐに感服しました。以前の私の日本人に対するイメージは、厳粛でユーモアのセンスがなく、いつも一人でこつこつ仕事をするというネガティブな印象でした。

日本語を学習しているときに私が一番困ったのは発表でした。準備をするたびに、いつも「間違えたら恥ずかしい」と怯えていました。「今から、互いに握手しながら発表してもらいます。自分の気持ちを相手に伝えよう。では、三分間、スタート！」と筈川先生が大声で叫ぶと、私の胸はすぐに高まりました。緊張しながら先生と握手をして発表した時、「いいじゃない！趙さん。これからも頑張るってね！」と、いつも励ましてくださいました。「先生、ありがとうございます。」私はとても感動し、少しずつ自分に自信を持つようになりました。そして、自然と「私も天才だよ。」という言葉さえ、大声で言えるようになりました。

特訓班はたった五日間でしたが、私に大きな変化が生まれました。その後、私は和食フェスタの着物ショーをはじめとする様々な日中交流活動に参加して、活躍もできました。日本人との交流も、完全に、好きになることができました。

昨年九月、日中関係は一時悪化しました。その時、日本にいた私の生活はあまり影響を受けませんでしたが、いつもいらいらして将来の行方を心配していました。そんな時期、意外にも先生からメールを一通受け取ったのです。「趙さん、こんな時期だから互いに大変だけど、焦らずに一步一步やっっていこう。今日の嵐が通り過ぎるのを待とう。急いだり焦ったりしていても良いことはない。自分のできることをしっかりやっっていこうね！」と。私は涙を浮かべながら筈川先生の言葉を繰り返し読みました。心に力がみなぎってきて、いらいらしていた気持ちも落ち着きました。

筈川先生と出会えて本当によかったです。先生のおかげで、日本語能力を高めることができただけでなく、日本という国、及び日本人を改めて認識することができました。先生のおかげで、私は今日、新しい舞台に立ち、自分のこと、ひいては中国のことを皆さんにお話できるとともに、自らの手で、日本人と交流し、日本文化を理解する手がかりをつかむ努力をしています。

自分自身を理解するだけでなく、相手に対しても理解を深め、互いに尊重し合うことで、

はじめて共に生きていけるのだと実感しました。本当の信頼と交流があるからこそ、日本と中国は嵐の中を一步一步前に向けて共に歩むことができるのではないのでしょうか。それを実現するため、私たち、日中の若者は努力していこうではありませんか。皆さん、日中交流にささやかな力を、ともに注いでいきましょう！

<奨励賞> 打刃物製作所の見学について



人間社会学研究科 M1 年
樊 士進 (中国)

みなさんこんにちは、中国人の留学生、樊士進です。今回の弁論のテーマは「打刃物の製造所の見学について」です。皆さん打ち刃物をご存じですか？それは熱い鉄を打って出来た包丁などの刃物です。私はずっと前に「堺は包丁が有名だ」という話を「聞いた」ことはありました。でも、百聞は一見にしかずの諺のとおり、何人かの府大生と一緒に、包丁工房を見学しに行くことにしました。

工房に入ると、真っ黒な部屋に、ほこりひとつ無いほど磨き上げられた、たくさんの機械がずらっと並んでいました、また、溶鉱炉の炎がパチパチと音を立てながら揺らめいている姿が目に入りました。我々の見学を笑顔で迎え入れてくれたのは、包丁職人の榎並さんでした。私達の見学が始まると、榎並さんは、包丁の作り方を実際に実演しながら説明してくれました。

溶鉱炉に鉄を入れ、温度を調節します。榎並さんは石炭の色で温度が分かるとおっしゃいました。鉄を叩きながら伸ばす作業を繰り返し、刃物の形を造っていきます。その次は荒研ぎと精密研ぎの作業です。いろいろな機械を巧みに使い、細かな所まで細工が行きとどいていました。

榎並さんは毎日朝 7 時から晩の 6 時に渡って作業を行います。それでも、一日に 6 本程しか作れないということです。榎並さんの思いが込められた包丁を見ると、玉のような汗をかきながら懸命に鉄を叩く榎並さんの姿が浮かぶようです。完成品は工場で画一的に製造したものと比べると、切れ味に優れ、より人の手に馴染むようになっています。堺の職人の包丁は、たくさんのプロの料理人からも愛用されており、高い評価を受けていま

す。

また見学のと、自ら鍛造する作業も体験させて頂きましたが、これは本当に難しかったです。見ることは簡単ですが、実際に挑戦してみることはとても難しいです。榎並さんは、まるでなんでもないことのように、さらりとおっしゃいましたが、熟練した職人になるまでに、なんと10年もかかったそうです。10年という時間に、我々見学者一同はとても驚きました。

私は大学の授業を日本語で理解するのに、毎日勉強をしても、一年以上もの時間がかかりました。この1年という時間は私にとって非常に長い時間のように思え、大変しんどい思いをしました。しかし榎並さんの10年にも及ぶ修行のお話を聞いて、今では、自分の勉強の大変さが、取るに足らないもののように思えるようになりました。

伝統を引き継ぎ、守ることが大切だと榎並さんはおっしゃっていました。しかし、そうした仕事は辛い仕事であることが多く、今の若い人の中に引き継ぎ手が見つからないと、榎並さんはため息をついていました。「うちの技術は、家を継ぐ男子にしか教えることができない。それもわれわれの伝統。」榎並さんは、代々打ち刃物の製造を続ける職人の家系の五代目に当たるそうです。我々は再び驚きました。伝統を引き継いでいくためには、榎並さんのような職人の方が持つ「無形財産」（つまり技術のことですね）をたくさんの人に伝えていくことが必要とされているのではないのでしょうか？

榎並さんの姿から多くの大切な事を学ぶことができました。それは僕の日本人との交流の中でも印象深い出来事のひとつです。日本で暮らすこれからの数年間、このような日本の皆さんとの生の触れ合いを通じて、より日本の文化を学び、中国のみんなに伝えていきたいと思います。

以上で私のスピーチを終わりにします。ご清聴、有難うございました。

<奨励賞> これまでとこれから



人間社会学研究科特別聴講学生
ボフォ・セリア (フランス)

こんにちは。私が日本にきて、一ヶ月が経ちました。一ヶ月だけなので、私が話せることはまだ少なく、また、ほかの参加者の方ほど日本語が上手ではありませんが、がんばりますので、聞いていただけると嬉しいです。私が話したいことは二つあります。一つは今まで経験したこと、もう一つはこれから経験したいことです。

まず、今までの日本人との交流経験を考えてみました。日本に来る飛行機の中で、親切な日本人に出会いました。日本に着いてから、上野芝までの切符の買い方を教えてくれました。また、大阪府立大学に来て、チューターや「国際交流サークルオリオン」の学生に出会いました。みんながとても優しく、自然にいろいろなことを手伝ってくれるので、驚きました。このように、私が一番驚いたことは、やはり日本人の優しさです。日本人の「礼儀正しさ」について以前聞いたことがあったので、最初は、義務的に私のことを手伝ってくれるのかと考えたこともありました。しかし、やはり今まで私が出会った日本人には、表面的な「礼儀正しさ」ではなく、「思いやり」があったと感じています。本当に感謝しています。

さらに、日本の人がフランスについて強い関心を持っていることにも驚きました。「美食の国」というイメージがあることは知っていましたが、それくらいだと思っていました。私はフランスについてたくさん質問されました。フランスの文化や価値観を伝えられるのは嬉しかったです。もちろん、真面目な話だけではなく、フランス人の恋愛についても話しました。みんなのイメージとは違ったようで、おもしろかったです。そして、私が生まれ育った場所の話もしました。私の実家はTOULOUSEという街にあって、そこはフランスの南西にあります。私が「パリよりすごくいい街」だと言うと、みんなは笑ってしまいます。(きっと、パリを「すごくいい街」だと思っているからですね。)しかし、これは、東京と大阪の関係と同じではないかと思います。(大阪の人も「東京よりいい」と思ったりしますよね。)そう考えると、大阪の人にはTOULOUSEを身近に感じてもらえるし、私も大阪を身近に感じられます。

このように、この一ヶ月でいろいろな経験がありましたが、大切なのはこれからです。大学での勉強以外にも、日本の人とたくさん話して、もっとお互いの国について教えあい、学びあいたいと思います。その中で、一番重要なポイントは、おそらく「日本人とフランス人の考え方を比べて、良いところと悪いところを見つける」ことです。たとえば、日本の考え方の中で、気になることが一つあります。日本人は一般的に、悲しいときやつらいときにも、なるべくそれを隠して、笑顔で仕事や大学などに行くようです。もちろん、いつも不満を漏らしていたりすると、周りの人もきっとイライラすると思いますが、時々、本当の気持ちを見せるのはいいと思います。そうしたら、もっと親しくなれるでしょう。日本人の多くは、自分の思ったことを気軽に話さないように思うので、私は「遠慮せず話してね。」と周りの人に言いたいです。反対に、フランス人は、日本人のようにもっと相手のことを考えた方がいいと思います。また日本のように、先生に敬語を使うことはフランスではあまりないことです。敬意を払うことは本当に良いことだと思うので、見習わないといけないと思います。

他にも話したいことはたくさんありますが、すべて話すことはできません。最後に言いたいことは「これまで、いろいろありがとうございます。」そして、「これからの日本での経験を楽しみにしています。」最後まで聞いてくださって、ありがとうございました。

<奨励賞> 私の日本留学生活 ～ 自分の体験から考えたこと ～



人間社会学研究科特別研究学生
喻潔 (中国)

春爛漫の三月に交換留学生として日本に来ました。初めてこの土地を踏んだ瞬間の感動や驚きの数々は今でも鮮明に覚えています。「空は澄んでいます!」「街はすごく綺麗です!」それは映像に見た日本、他人から聞いた日本、夢に見た日本よりもっともっと美しかったです。

特に印象に残ったことは、夕方、私と友達が重い荷物を持って空港から寮まで急いで行った時のことです。日本に来るのは初めてだったので、地図を見ても、何回も道に迷いました。最初は一人の女の子に聞きました。すると、この女の子はすぐに「一緒に行きまし

よう。」と言ってくれました。私たちの重い荷物を見て、一つ持ってくれました。この後、一人の学生さんも親切に道を案内してくれました。もっとも感動したのは上り坂で、私が疲れてたまらなくて、道端で休んだ時、一人のおばあさんがそばに来て、「持ってあげるわ。」と言ってくれたことです。私がおばあさんの真っ白な髪を見て、「ありがとうございます。自分でできます。」と言おうとした時、そのおばあさんは既に私の荷物を持って、前に歩き始めていました。上り坂を上った時、私が「ありがとうございました。」と言ったら、おばあさんはにこにこして、「大丈夫ですよ。今は遅いですから、気を付けて。」と言ってくれました。このようなやさしい日本人に会ったので、この長い道は短くなったような気がしました。心の中の不安もいつの間にか消えてしまいました。今日はラッキーだ、と思いました。

実はこのようなラッキーな日はその一日だけではありません。今まで私はずっとラッキーです。いつもいろいろ教えてくださって、お世話になった先生や学生みなさま、里親会で出会った日本人の里親、よく交流活動に招待して下さった方々など、みんなのやさしい顔がいつも私の頭に浮かんでいます。この方々のおかげで、親元から遠く離れた私は一人でここにいる時、さびしく思うこともなく、困難にあっても、勇気を持つようになりました。今振り返ってみると、日本に来る前、私自身も両親も不安でした。「中国で出会った日本人はみんな親切だが、一人で違う国に行くときどうなるだろう?」「生活習慣や考え方などが同じではないから、日本人は私の気持ちを理解できるだろうか?」というような疑問がありました。しかし、今はそのような疑問が消えてしまいました。この一衣帯水の隣国、日本にもっと親近感を覚えるようになりました。考えてみると、それは日本人の心遣いと思いやりの気持ちを深く感じたからです。これはまさに宮澤章二さんの書かれたように「心は誰にも見えないけれど、心遣いは見える。思いは見えないけれど、思いやりは誰にでも見える。」ということでしょう。ですから、私は日本と中国の人々が、心遣いや思いやりの気持ちを持って交流していけば、両国の間に立つ壁がきっと消えてしまうと思います。

そして、大学の日本語クラブで出会った先生の話思い出しました。この先生の知人は第二次世界大戦が終わった後、私の故郷、長沙に何年間も滞在していました。その時、近くに住んでいる中国人はその日本人にいろいろな世話をしていました。大阪に帰って高齢者になったその日本人は、今もよくこのことを話していました。私はその話を聞いて、その日本人に感謝する気持ちになりました。なぜなら、中国人の心遣いと思いやりを日本人に伝えてくれたからです。

それから、今の中国の大学院の指導教授も 25 年前に来日して、帰国した後中国で日本語専門学校を創立しました。その先生は今、日中の架け橋のような存在で、日中交流のため

に頑張っています。このような日中の方々のおかげで両国の交流はますます盛んになりました。若者としての私は自分の責任を深く感じました。ですから、このせつかくのチャンスを大切にして、これからはより多くの日本人とコミュニケーションをして、日本人の思いやりの気持ちと日本の進んでいる理念などを中国人に紹介して、より多い日中交流とより良い日中関係のために、少しでも貢献したいと思います。日中の若者たちがみんな一緒に頑張れば、日中関係はいつかきっと新たな段階に上がると信じています。

大阪府立大学
第 20 回留学生日本語弁論大会
寄附者名簿

堺市内 11 ロータリークラブ

- 堺ロータリークラブ
- 堺東ロータリークラブ
- 堺フラワーロータリークラブ
- 堺泉ヶ丘ロータリークラブ
- 堺中ロータリークラブ
- 堺北ロータリークラブ
- 堺おおいずみロータリークラブ
- 堺フェニックスロータリークラブ
- 堺青陵ロータリークラブ
- 堺南ロータリークラブ
- 堺東南ロータリークラブ

国際ソロプチミスト堺（団体および個人）

(順不同)

大阪府立大学
第 20 回留学生日本語弁論大会
報告書

大阪府立大学留学生後援会
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1 番 1 号
大阪府立大学 国際交流課
電話 072-254-8142 FAX 072-254-8145

